



運動会をとおして学んでほしいこと

三原に吹く風

昨日、連休明け初っ端から、運動会の「開会式」の全体練習がありました。1年生は初めての全体練習でしたし、他学年も今年初めての全体練習でしたが、入場行進、ラジオ体操、応援合戦など80点は付けられる出来栄でした。特に応援合戦は今年も6年生のリーダーを5年生、4年生がしっかりとアシストし、すでにいつ見せてもいいぐらいの出来栄です！



【紅組応援リーダーの勇姿】



【白組応援リーダーの勇姿】

紅組応援リーダー中尾袖月さん、白組応援リーダーの片岡恭子さんからは「本気になる」「真剣になる」ことの素晴らしさ、神々しさを教えてもらっているような気がします。すでに声をからしながら、それでも必死に頑張る格好良さを、ぜひこの二人のリーダーから、全校児童が学んでほしいと思います。最近、「本気」「真剣」になることを照れくさい、格好悪いと感じて、人前ではもじもじしたり、そもそも人前に出ようとしなかったりする風潮があります。三原小が掲げている「感動いっぱい」、「笑顔いっぱい」になるためには、まずそのベースに「真剣いっぱい」であることが大切な条件です。本番、赤組、白組どちらの組が勝っても負けても、きっと彼女たちの「真剣いっぱい」が全校に広がって、みなさんを「感動いっぱい」にし、「笑顔いっぱい」にしてくれるものと信じています。

古くから「立場が人を作る」という言葉があります。今までと違う立場（ポスト）になることで、その責任感のもと、一生懸命できることからやっていく。そのことで、いつしかその立場（ポスト）にふさわしい人（人格）に近づいていくと言うことでしょうか。6年生は、今まさにそのようになるべく、挑戦が始まったのだと思います。また、自分はひとりではない、周りにいる友達や先生と関わりながら支えられ、支えて自分の位置に気付くことがあります。まだ始まったばかりではありますが、しっかり見守り、応援していきたいと思っています。

一生懸命やっている中で失敗は大いに結構です。トライ&エラーを重ねながら、いつしかその役割を担い、結果を出すことによって力量がさらに増し、リーダーシップも人格も磨かれていくと思います。頑張り、輝くリーダー6年生！

宮原のつぶやき

ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか？毎日高止まりの中、一向に減る気配が見えない新型コロナウイルスのことが気がかりで、2年ぶりの規制がないゴールデンウィークだったにもかかわらず、遠出するでもなく、でも家に籠りっぱなしだと気分も減ってくるので、嫁さんと近場をドライブが多かったですね。何せ校長が感染して、学校中に広げたとされると日頃感染防止のお願いをしている立場上（これも立場が人を作る？(^-^;)）、立つ瀬がないですもんね…。早く大手を振って旅行に行けるようになってほしいと心から願います！